

情報「萌えて」NO6

2007・1・30 発行

江刺忽布農業協同組合

TEL0197-35-3012 Fax 0197-35-3523

http://www.vip.net/esasihop



「新年ご挨拶」



岩手ホップ管理センター所長 伊藤俊哉

「キリン社と協調を軸に産地維持」

代表理事組合長 斎藤達彦

謹んで新春のご祝辞を申し上げます。

稀にみる穏やかな、亥年の新春の幕開けとなりました。組合員の皆様及び関係各位に於かれましては、夫々健やかに新年をお迎えになられた事と思えます。

ここ数年当組合に於いては、温暖化に伴う異常気象の影響もありまして、収量が伸び悩み組合員の日頃の努力が報われない傾向が続いています。

そうした中でも高収量を維持しておられる耕作者の方々、長年の蓄積した技術力と努力の積み上げで成果を挙げている実績がある訳で、私達周囲がもっと積極的にその技術を吸収すると共に、ホップに取組んだ初心と、技術的には更に一層基本に立ち返る事が大事であると考えられます。組合員諸兄の一層の奮起を期待したいと思います。

2007年当組合の執行者として私達が取組むべき課題は、契約会社であるキリン社の期待に対して、誇りを持ってたいじ出来る産地として確立し、定着させる事に尽きると思えます。

今日まで取組んで来た諸々の事業、中核収穫センターの設置と定着化、創立50周年記念事業の実施、生産者サイドからのホームページの発信、そして今や組合の財務を支えるペレット加工を始めとするキリン社からの受託事業、これら全ての取組みは、キリン社との良好な協調関係を築く事を願望したものであります。

キリン社は今年創立100周年を迎える事になると聞いています。更に一層の発展のために、私達も些かでも貢献が出来るよう、高品質なホップ生産と安定した産地維持、誠意を持った受託事業の取組みを継続して行きたいと思えます。

その為に皆さんと共に取組むべき事は、一人一人がホップに対し、愛着と意欲を燃やし続ける事以外には有り得ません。

一層のご健勝とご健闘をご祈念いたします。

江刺忽布農業協同組合の皆様、明けましておめでとうございます。

日頃は良質なホップの生産にご尽力いただきまして、ありがとうございます。

昨年は天候不順のため、ホップの生産量は例年を下回る事になりましたが、品質は高い水準を維持することが出来ました。現在岩手ホップ管理センターにおいてペレットへと加工されたホップが、全国のキリンビール工場へ出荷されているところです。

また、昨年はビール・発泡酒・新ジャンルの総市場が、少子高齢化や嗜好の多様化、酒税改正などの影響もあり縮小する中で、キリンビールは1億8千710万箱(対前年比4.8%増、大びん換算)と、2年連続対前年プラスで着地し、厳しい市場環境の中で業界全体を上回る実績を上げる事が出来ました。

これも、良質な原料を使用したビールの品質がお客様に評価された結果と、皆様に感謝申し上げます。

さて、キリンビールは本年2月27日、おかげさまで創立100周年を迎えます。今年を一つの節目として、これまで以上にお客様のご支持を頂くため、高品質なビール製造を続けてまいります。高品質ビールの製造には、高品質の原料の使用が必須です。

特に江刺を始め国内で生産されているキリン2号はビールに華やかな香りを付与するのに大きな役割を担っております。是非とも、今年も皆様方のご協力をお願い致します。

最後に、皆様方のご健康と今年の天候がホップにとってより良いものであることを祈念いたしまして、新年に当たってのご挨拶とさせていただきます。



新春の新山神社

新春に豊作安全を祈願する

稲瀬新山神社

亥年新春の仕事始め(1月4日)に於いて、江刺区、稲瀬の新山神社に参詣し、組合員のホップの豊作と加工作業の安全を祈願しました。

ご祈禱を頂いた後、穏やかな年明けの様に平穏な、そして季節感溢れる一年が推移し、作業の安全が守られる様に宮司さん共々話合った事でした。

理事会情報

12月9日の審議内容

この日の理事会の主な内容は、平成18年度の取組み経過の反省と、財務内容の検討でした。昨年は江刺のみならず、各県各組合とも収量を落とした事から、加工数量が大幅に減少し組合財務に大きな影響を及ぼしましたが、管理費の節減等に努力した結果、所期の目的を達成する成果を上げる事が出来ました。

昨年発生した欠損金を解消出来る見通しである事

懸案であった債権回収の見通しが立った事
棚補強及び環境整備に対する資材費助成を継続する事

萌芽期に於ける原因不明の発芽不良株大面積発生した場合、改植に要する苗代助成要領を新期に策定する事、等でした。



冬のホップ畑

全ホ連情報

国産ホップ振興会議から

1月21日恒例となっている国産ビールメーカー、酒造組合、国産ホップ幹部職員、及び会員組合の代表者の会議が開かれました。当組合からはペレット加工作業の実質スタートの日であったため、斎藤が一人だけの参加となりました。

会議は2段階日程での進行となり、幹部職員会議では、今年の経過と反省・今緊急を要する課題、等について話し合いました。全体会議では安全な製品を提供するために、農薬のポジティブリスト制への移行に対応するための課題やジレンマについて意見交換すると共に、10年後の国産ホップ産地の姿を見据えた、率直な意見交換の必要性について話されました。

今後とも相手の立場に相互理解の姿勢を持ち続け、国産ホップの必要性に共通認識が存在する限りに於いて貴重な会議の場であると思えました。

全ホ連運営の見直し必須

全ホ連組織発足以来、国産ホップ育成の名目で継続されてきた、ビール酒造組合からの運営補給金(助成金)が、諸般の事情から平成19年度以降廃止となりました。

契約取引関係という対等な取引と助成の考え方の矛盾点を整理するためと言う事です。全ホ連の運営大きな支障は避けられません。

夫々の産地が縮小している中で、産地としての横の連携は必要不可欠と思えます。皆がぜひ参加したくなるような事業を作り上げてゆく必要があると思えます。

加工現場から見た江刺産ホップ

今年のペレット加工事業は、仙台工場の指導と作業員の協力によって、順調に進んでいます。

腐敗花の発生も少なく品質良好と言えますが、特徴的な点を挙げてみますと、

1. 残留農薬の再分析点数が多かった、(各組合)ポジティブリストの施行で食品業界及び生産者サイドとも非常に敏感になっている事が伺えます。
2. 江刺産では江刺、北上中核センターを中心に茎葉の多さが目立つ、機械の改良では対応しきれないであり、収穫時、皆で出来る事を工夫して心がける、その積み上げで茎葉混入に努力して頂きたいと思えます。
3. 暖冬のため、「トヨミドリ」の加工に入って樹脂の付着が多く苦戦しています。